

任敵の様を志しに我大勢を起て備を堅
しと形勢が陣は押然しに陣は古希あり
前に堀あり強弓を古希矢を發するにあ
矢拂ふことふくみ強弓の云を出しと然
しむらに貞任大勢よてきてり（きは味方ハ
古希の月より引籠り強弓よて是を射を
めあふ敵は強小貞任亦負て陣を破る是
頃の境を引退きより形勢の勢雲の如
に集りて強は貞任を亡しあひきとあり
尚郡並沢村は弟羅利は忠つといふ百姓有

持る三子石の内松本一辛勞死とて三百石
永代より金形義朝臣貞任討伐しあふ時
利は忠つ先祖源くくも弟永をなご松ひ敵
陣は仕方の死を起し福利を得あふ後形義
父子利は忠つが先祖の辛勞を感とられ
天守（奏）辛勞死を家行り建別姓を弟
藤と給しと云傳へり

五代一説曰康平五年九月六日源朝義衣
川の関を衣川の関ハ破る貞任多海の柵
りくく十一日多海を攻と云く同十七日厨川